

審議会等の会議結果報告

1 会議名	第4回津市文化振興審議会
2 開催日時	平成27年3月27日(金) 午後2時00分から午後4時10分まで
3 開催場所	メッセウイング・みえ1階 中研修室
4 出席した者の氏名	(津市文化振興審議会委員) 伊藤寛司、加藤久、川合俊平、阪野優、佐藤ゆかり、田端忠勝、中津多喜郎、中林カオル、錦かよ子、濱野章、水谷てつ子、椋本千江、山田康彦、山本賢司、渡瀬容子 (事務局) スポーツ文化振興部長 新家聡、スポーツ文化振興部次長 市川雅章、文化振興課長 脇田久三、文化振興課調整・事業担当主幹 木村みどり、文化振興課事業担当主幹 中村光司、文化振興課施設担当主幹 野村三枝、文化振興課施設担当副主幹 小黒誠仁、文化振興課事業担当副主幹 小林淳子、生涯学習課長(兼)津城跡整備活用推進担当副参事 野田剛史、生涯学習課文化財担当主幹 米山浩之
5 内容	1 あいさつ 2 議事 平成26年度文化振興事業の実績評価について 3 報告 平成27年度文化振興事業の事業計画について 4 その他
6 公開又は非公開	公開
7 傍聴者の数	0人
8 担当	津市スポーツ文化振興部文化振興課 電話番号 059-229-3250 E-mail 229-3250@city.tsu.lg.jp

・議事の内容 下記のとおり

事務局	定刻になりましたので、平成26年度第4回津市文化振興審議会を開催させていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。それでは、開会にあたりましてスポーツ文化振興部長の新家からごあいさつ申し上げます。
新家部長	みなさん、こんにちは。本日は津市の文化振興審議会ということで出席いただきましてありがとうございます。また委員のみなさまにつきましては津市の文化行政をはじめ市政全般につきましてご協議いただきまして、ご理解ご協力いただきますことを、この場を借りましてお礼申し上げます。本日の審議会につきましては、平成25年度にご協議をいただきまして、文化振興計画の改訂版を策定していただきました。それに基づきまして、審議会の中で毎年度、事業評価をした上で、その次の文化振興につなげていきたいということで、本日、委員のみなさまには事業の在り方など、改善点がないか評価をしていただきまして、意見をお願いしたいと思っておりますので、よろしく願います。また新聞等でも見ていただいたかもしれませんが、久居ホールの整備を進めています。今年度、有識者委員会を7回開催させていただきます。概要が

<p>事務局</p>	<p>まとまってまいりましたので、その他の方で報告をさせていただきますので、それにつきましてもご意見をいただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。本日は、いろいろと評価をしていただくということで、長時間になるかもしれませんがよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。それでは議事に入らせていただきます前に資料の確認をお願いします。事前に郵送させていただきました事項書はお持ちいただきましたでしょうか。お手元に名簿等6種類の書類を配布させていただきましたが、ありますでしょうか。それから、今日は平成26年度の評価ということで、報告させていただきますのは文化振興課の事業だけですけれども、今日は生涯学習課の職員に同席していただいておりますので、文化財保護等の質問等がありましたらよろしくお願ひします。</p> <p>それでは、ここからは津市文化振興条例第12条第1項により審議会の会議は会長が議長となるとしておりますので、山田会長よろしくお願ひします。</p>
<p>山田会長</p>	<p>よろしくお願ひします。これから会議を進めさせていただきます。最初に、出席者の確認ですけれども、本日委員15名のうち、今いらっしゃる予定ではないかと思いますが、現在のところ1名御欠席ということで、14名の御出席です。津市文化振興条例第12条第2項の規定により会議が成立していることをお伝えさせていただきます。</p> <p>また、本日の会議は、津市情報公開条例第23条に基づいて、公開とさせていただきます。また、会議結果につきましては、市のホームページに公開されることになっていきますので、ご了解いただきたいと思ひます。本日はほとんどの委員にご出席いただき、ありがたいと思ひています。</p> <p>それでは、早速議事に入らせていただきます。今日の主な議題は、議事としては1つ。先ほど部長さんがお話されておりましたように、平成26年度文化振興事業の実績評価です。こちらにつきましては、実績評価という形で本格的に実施するのは、今年度から、今回初めてということになります。昨年度は4月の審議会で平成25年度の実績評価を予行演習的な形でやってみたんですけど、本格実施は今回からということになりますので、ぜひみなさん、色々なお気づきの点がありましたら、たくさんご指摘いただき、評価ということについて、深く審議していきたいと思ひています。進め方としては、まず、資料1ということになりますけれども、全体の説明をしていただいた後に、個別の説明をしていただいた上で、議論をすすめていきたいと思ひます。今年度の実績評価が終わりましたら、報告ですけれども来年度の事業計画に入っていくたいと思ひます。それでは、まず全体の表の説明を事務局からさせていただきます。</p>
<p>木村主幹</p>	<p>それでは、表の説明をさせていただきます。資料1で、全部で21枚の事業評価票がついていると思ひますけれども、左上から振興計画の基本目標、施策内容、右上に事業番号、個別事業名となっています。Iで事業概要を振興計画から抜き出して書いております。IIで事業費ということで、参考となるように25年度を一番左端に載せさせていただきます。26年度の分がちょうど真ん中のあたりにきていていると思ひます。IIIが目</p>

	<p>標値に対してどうだったかというところになっております。4月にさせていただいた時から、変更になったところが、Ⅳの自己評価のところ、文化振興課のコメントであるとか、実行委員会の意見とかアンケートとかをなるべく多く書くようにということにしたので、枠を大きめにさせていただきました。最後5番目ですが、審議会の意見ということで、みなさんからいただいたご意見を後ほど、事務局の方でまとめて書かせていただこうかなと思っております。個別の説明は、それぞれ担当しております主幹が3名おりますが、事業ごとに交代しながら説明していきますので、よろしくお願いします。以上です。</p>
山田会長	<p>それでは、早速事業ごとの説明ということで、よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>「平成26年度文化振興事業の実績評価について」説明</p>
山田会長	<p>では、これでよろしいですね。私の方でこのように数値目標を明確にさせていただいて、評価するというのが、今年が初めてで、その点でこういう評価をするっていうのが、ある意味画期的なすごい進歩なんですね。そういうことを踏まえつつ、私の方で勝手に全部で21事業あるんですけども、21事業のうち、一応、目標が達成しているのがどのくらいで、達成していないのがどのくらいかと私の方が勝手に試みて、事務局の判断とは違うかもしれませんが、それを整理させていただくと、形だけでいけば目標達成は21事業のうち8。未達成13。ほぼ達成しているというのを入れると、大体半分ぐらいが達成しているという状況ですね。で、未達成の中でも、もうちょっと区分けがありまして、昨年度実績よりも上昇しているのが、6です。13のうち6。下降しているのが4。同じのが3という感じ。そのような形だということをご理解ください。それでは、こちらの方で予定したのは、30分くらいは少なくとも議論できますので、ご意見をいただきたいなと思います。全体にかかわることで結構なんですけれども、一応目安としては、市民文化の振興にかかわる部分、事業番号が19まで、文化施設の経営改善が20～22、3つだけです。残り、歴史的資源の保存と活用が残りということで、そのようなことを念頭に置きながら、お気づきの点、ご意見いただければという風に思います。ご質問やご意見をお願いします。</p>
阪野委員	<p>公募委員の阪野ですが、事業番号2から。目標値が1,000ということで、津市の人口が約284,000人いますので、目標値1,000というのは私の意見としては、それほど高い目標値ではないと思っています。それにしても、実績値が291というのは、ちょっと低いなという感じがします。自分としては8月に自己紹介させていただいたとおり、教員をしていたので、出品料を免除、昨年度から高校生や大学生、各種学校生の出品料が無料で、12名の学生が出されたそうですが、できたら中学、高校生、大学生、各種学校生というふうにしたらどうかなと思います。以上です。</p>
山田会長	<p>中学生まで広げたらどうかというお話ですか。</p>
阪野委員	<p>今日いただいた資料に、市展は育てます芸術の芽、鑑賞の目とありますので、育てますにちょうどマッチするんじゃないかと。</p>
山田会長	<p>いくつかご意見をいただいてから。</p>

川合副会長	今の事業番号2ですが、写真の出品が減ったと書いてありますが、私の知る限りでは、津市の写真はとてもレベルは高く、評価もされていると聞いていますが、事務局として、こういうことが考えられるなあということがあれば、教えていただきたい。
中村主幹	写真の20点の減少につきましては、事前にある写真サークルの団体から今年は撮影旅行の日とまったく重なって出品できませんと。25名ほどの団体ですけれども事前の連絡がありました。おそらく想定するに、その団体の会員のみなさんがまるまる出品できなかった。長野県の撮影旅行が搬入日と重なって出品できなかった、そのあたりではないかと思っています。
加藤委員	ちょっと勉強不足ですみません。出品料については、いくら。写真部門、絵画部門と違うのかとかそのへんを。
山田会長	お願いします。
中村主幹	説明不足で申し訳ありません。出品料につきましては、1人につき1部門1点で500円となっています。阪野委員から質問がありました、中学生の分もここで併せてお答えさせていただくと、表現が足りなくて申し訳ありませんが、中学生も含めて学生は無料とさせていただいております。今年は中学生の出品はなかったんですけれども、去年は2人、美術工芸部門に出品がございましたので、併せてご報告させていただきます。
山田会長	阪野委員さんの質問の意図としては、出品料という話だけではなくて、中学生も応募できるんだよというような広報も含んでやってくださいというご発言ではないかと思いますが。ぜひ、ご検討いただきたいなと思います。
中津委員	私も勉強不足で教えてほしいんですけれども、今年度から事業評価票を作られたとお聞きしたんですけれども、その中で、各地域（旧津市以外を言う）と、目標各地域というのは、津地区以外のことを指すんですか。例えば各地域におきましても、持ち点が100点ということですか。当然、各地域によって、人口も違いますし、いろいろな文化、伝統も違いますので、そこらはどうなんかなと思うんですけれども。とりあえず、その質問だけさせていただきます。
佐藤委員	関連して、各地域の参加点数100点以上と事業番号2にありまして、事業番号3の方にも各地域からの参加者数1,000人となっておりますが、Ⅲの目標値をみますと、事業番号2も事業番号3も載っていませんので、詳細な分析をするには、各地域からの参加点数や参加者数を含めた方がいいのではないかと思います。
脇田課長	昨年、文化振興計画を改訂させていただきました時に、このような目標を立てさせていただきました。ただ、おっしゃっていただきましたように、地域によりまして、人口も違いますし、確かにそういうことはあろうかと思います。これは大きな目標を立てて、今は津、久居の旧2つの市を中心に展覧会に参加いただいておりますので、はじめとしては、各

	<p>地域から多くの人に参加していただきたいなという思いから、このようにさせていただきました。ただ、人口も違いますし、数値的な整合性は足りないというのはご指摘のとおりかなと思いますので、またそういう部分ではもう少し精査をしながら改訂をしていきたいなと思います。</p>
山田会長	<p>佐藤委員さんのもし可能ならば、そういう各地域からという目標となっているので、実績も分かるような実績になるといいなと思います。</p>
山本委員	<p>事業番号2ばかりになってしまいますが、数の1,000というのが、膨大な目標値のように思えます。点数が多ければいいというものでもないと思うんですね。市展の場合は、市民文化祭で絵を出したりというのは、各地域からもかなり素人のひとたちがたくさん出していると思うんです。一応美術展となると、いわゆる美術として耐えうるものの競いあう場という風に捉えていけば、数だけではないと思う。それと、旧津とか久居とか人口の比例からすると、各地域からどのくらいの比例になっているかは分かりませんが、ある程度の絵を描いたり、写真を撮ったりしている人は、白山に住んでいようが、美杉に住んでいようが、市展に出していると思うんです。もう1つですけれども、審査員は文化祭の運営委員さんが選ばれているのでしょうか。</p>
中村主幹	<p>美術展の審査員につきましては、市民文化祭の委員ではなくて、美術展の実行委員会という中で、推薦を受けて、市内の方あるいは市外の方という形で、選定をいただいております。</p>
山本委員	<p>市の美術展の実行委員さんは変わっていくのでしょうか。何年くらい継続しているのでしょうか。</p>
中村主幹	<p>実行委員は現在8名です。お手元の目録の最終ページの右上に実行委員会の一覧がございます。市展6部門ございますので、6つの部門で各1名の代表が各部門委員ということになっています。それから1番上の浅生幸子さんと4番目の岡本祐次さんが有識者ということで参画いただいております。各部門委員の中から推薦をいただいて、審査員ということですが、実行委員の任期等は定まっておきませんので、継続して就いていただいている方が多くございます。</p>
山本委員	<p>日本画部門ですと今年の審査員は誰にしようかというのは、実行委員全体ではなくて、日本画の方が選ばれるんですか。各部門実行委員さんがそれぞれ入っていますけれども、その方が選んでいるんですか。</p>
中村主幹	<p>推薦を得まして、実行委員会です承を得るといような形でございます。</p>
山本委員	<p>審査は、毎年審査員が変わっていくと思いますけれども、同じ方が、毎年とか隔年とか偏っていることはございませんでしょうか。私は、審査員をやった方ばかりは5年に1回くらいでいいんじゃないかと、審査の資格がある方がいらっしゃるんだから、できるだけ公平にした方がいいんじゃないかと思うんですけど。かなりのレベルの写真を撮ったり、日本画を描いたり洋画を描いたり、どこでもそうですけど、あの審査員だったら出したいとか、そのレベルまでできていると思うんです。あの審</p>

	<p>査員だったら、逆に出したくないという場合もあるかと思うんです。私作っていませんが、あるんじゃないかと思うんです。偏ると、同じ審査員の方が何度もやると、出す方が偏ってくるということの弊害があるので、希望ですけれども、そんなことはないとは思いますが、あるんだっただけならなるべく重ならないようにというのが要望です。</p>
中村主幹	<p>ご指摘の審査員の連続がということですが、基本的に3名の審査員で各部門お願いしておりますが、毎年同じ3名が続けてということはいけません。確実に1人は交代しますし、今年は書道部門が3名とも昨年から変わったりしますし、委員ご指摘の市民の方の不信感を持たれないように実行委員会でも話していただきたいと思っております。</p>
阪野委員	<p>審査について、審査員はとても優秀な先生で目も肥えていると思いますが、私が参加者で見に行った場合、この写真すごくいいな、この絵すごくいいなと思ったときに、来場者数が5,207名と25年度より26年度で増えていますので、来場者にこの絵いいと推薦させて、来場者推薦という賞を設けられたら鑑賞の目も育つのではないかと思うのですが、キャッチコピーにこだわって申し訳ないですが、育てます！芸術の芽、鑑賞の目になるのではないのでしょうか。できましたら、私も審査員という立場で鑑賞できる。そういうのを取り入れてもらえれば嬉しいのですが。</p>
山田会長	<p>私から一言だけ。県展はそういうシステムを入れていて、県展の審査のシステムを変えないといけないということで、会期中の最後の方にそういう投票に基づいた賞というのを出すというシステムを入れているので、それについても実行委員会などでもご検討いただければと思います。</p>
中村主幹	<p>会長がおっしゃっていただいたとおり、県展のシステムを参考にして、実行委員会で、あなたが選ぶベストセレクションとか、鑑賞者が自分も参加できる形を検討いただきたいと思います。</p>
伊藤委員	<p>今まで、市の商工観光の方で、津の街音楽祭というイベントの実行委員をさせてもらってまして、全国規模に応募をかけます。それで1次審査をします。2次審査はネット投票です。東京の音楽を演奏する人に対して、九州の人がそれを見て評価をして投票する。私は非常に画期的だと思いました。審査した上で、その投票を加味して2次審査にかけられると。それで本選。津に来ていただく。津に来ていただくというのが商工観光の次第で、基本的にそういう方法もありかなと。亀山の音楽イベントも実行委員会をやらせてもらってありますが、来場者に自分のひいきの、見た時に自分がいいと思ったバンドを記名してくださいと。何がよかったとか、誰がよかったとか。すべての方に意見をいただくというのが、一番企画運営する上においては必要だと思います。根本的に民間企業であれば、こういうのは当然ありなんですけれども、最後まで改善策まで確実に入れておかないと、評価だけして改善されない、しませんよというようにも取れるようにも思えますので、年度替わっての改善はこうしようと年度頭にできてもいいのかなと余計なことも加えてしまいましたがそう思います。</p>
田端委員	<p>事業番号2・3もそうですが、実行委員会の意見やアンケートの結果等についてそれぞれコメントがありますが、事業番号2の写真部門におい</p>

	<p>では2段展示になったとか、彫刻部門においては2部屋に分かれたとかのデメリットが述べられ、また、事業番号4で音響が悪い、会場が狭いとかの声があります。意見としてあげられていることは良いとしてもそれに対する対応をどうするかが課題と思います。対応しないなら来年同じような結果が出てくると思われますので、いつの時点で検討して改善していくのかというところが必要ではないのかと考えます。行政の方も実行委員さんより要望がなされていると思います。また費用の度合いによっては早い目に来年度の予算措置もしていかなければならないし、定期的なこともあろうかと思えます。一方、先ほど意見として述べられていた賞について、市長賞や議長賞等は展示オープンの時点で分かっているのですが、来場者が選ぶ場合は、締め切り時とからめて結果はいつ。いつ陽の目をみるのか。検討課題として考えられます。</p>
佐藤委員	<p>事業番号12番。企画参加者数が年々減っているというご指摘でしたが、目標値が50人以上となっていますので、前年比だけでなく、目標値との差も考察に入れていただきたいなと思います。何とか企画参加者を増やさなければならぬと思いますので、広報とか打ち込みだけでなく、市内の小学校、中学校、高校との連携とか一志の大井小学校の通信制高校のお話も聞いておりますので、将来的にはそういうところとか学校に馴染めない不登校の生徒たちの受け皿にこういうところがあったらいいなど、そういったところと幅広く連携、協力したらどうかなと思います。あと、Ⅲの目標値、先ほどと同じような意見になってしまいますが、企画参加者数と入場者数を分けて数字を出していただくようお願いしたいと思います。事業番号の29番も同じだと思いますけれどもお願いしたいと思います。</p>
阪野委員	<p>事業番号9番の映画。石原裕次郎は僕らがよく見た映画でしたけれども、先日、津観音の境内に小津安二郎さんの記念碑が建立されました。小津先生はすごい先生だと思いますので、できたら小津映画を上映していただければ嬉しい。そのように思います。前後しますけれども、事業番号5番。前回の審議会でも奨励賞とか功労賞とかの質問をさせていただきました。私は公募の委員ですが、私も審議委員として奨励賞とか功労賞の候補の推薦できるのでしょうか。もしできるのであれば、来年度早速、奨励賞1、功労賞1を推薦したいのですが。</p>
山田会長	<p>それはもうお願いします。</p>
阪野委員	<p>いつまでに。</p>
事務局	<p>今年の場合は7月の末まででした。6月の頭くらいに各委員さんに通知をさせていただきまして、1か月半くらいでお願いしますということで案内させていただいています。</p>
阪野委員	<p>案内がくるわけですね。分かりました。</p>
中津委員	<p>もう少し早くならないですか。2か月半くらいか3か月くらい。団体さんや個人の方にもお話もしないとかんし、説明もしないといけないし、その時間がほしい。初めての方には1から説明をしなければならない。</p>

山田会長	少し早めに広報できるようお願いします。
阪野委員	事業番号16番。毎年、俳句と短歌を出しているので、津市民文化に興味、関心を持っています。予算的に1,500冊印刷しているというお話でしたが、発行1,500冊の利用内訳教えていただきたいのですが。
佐藤委員	関連して。目標値が3,000で実績が1,500と毎年なっているのですが、目標値を売上件数にしたらどうでしょうか。
山田会長	今の内訳とも関係があるかもしれませんが、配布と販売と分けているのではないかと思うのですが。
木村主幹	ちょっと手持ちの資料を持ってきていないので、大体ですが、いろいろな公共施設への配布500、売上は2月末現在で310、残部が700くらい。
中津委員	公共施設の中に小中も入っていますか。
木村主幹	はい、小、中も入っています。
山田会長	今、急に目標値を変えるというのも、考えなければならぬと思いますけれども、その今佐藤委員がおっしゃった件だけではなくて、目標値の立て方自体にもしかして、配布するというのも大事な面だとは思いますが、目標値の立て方に検討が必要なのかもしれません。本当は積み上げていかなければいけないことなので、急に変わるということはできないかもしれませんね。
木村主幹	先ほどの阪野委員のご意見で、小津映画をということがあったと思いますけれども、お手元の資料の中で26年度は4本小津映画を上映させてもらいました。東京物語と晩春とお茶漬の味と麦秋です。やはり小津映画はすごい人気で、来場者も多いです。
濱野委員	小津さんの話がありましたけれども500万円の寄付のところ1,200万円集まったということでした。そこでも映画をするということでしたので、うまいことすり合わせをしておいてください。映画の取り合いとかダブったりすると。向こうもそんなことをすると発表していましたので。
中村主幹	その点に関しまして、今回の24日の除幕式は団体のみなさんの事業として、記念事業の山本富士子さんの方は津市との共催事業とさせていただきます。その実行委員さんとお話をさせていただいた中で、12月12日の命日に合わせて、映画上映をしていきたいということでしたので、その年にする映画については、この映画から除くと連絡をしながらさせていただきますと思います。
濱野委員	事業番号31の歴史ウォークがありますけれども、28番の薪能の時もウォークはやっていませんか。せっかく近くまで行っているのだからうまく一緒にしていってらどうかと思うんですが。
山田会長	28と31がジョイントすると。

濱野委員	そういうことはできないのでしょうか。
脇田課長	近くにセラピーロードもございまして、ウォークはできると思いますけれども、薪能はうちの職員も全員出ていますし、その中で対応するのは大変かなど。ただ、今日は教育の方もみえてますけれども、歴史講演会なんかは、同じ時期にやると聞いていますので、そこらへんは市役所の中で協議をさせていただいて、少しでも人が来ていただけるような手立てを考えたいなと思っています。
中津委員	薪能に関連して、25と28の事業ですね。なんで分けてあるんでしょうかね。文化財の保存・継承と歴史的資源を活かしたまちづくりと分けなくてもいいんじゃないかと。
中村主幹	合併前にそれぞれスタートした経緯が違うということがありますが、地域的にかたや津城の本丸を会場に、かたや北畠神社の庭園でと歴史的なものもありまして、実行委員会のみなさんも美杉の方は地元の方が中心となって地域の伝統芸能ということで北畠氏の伝承ということを中心に考えています。津城の方は藤堂藩の関係ということで考えてやっておりますので、ニュアンスの違いというのは、スタートの経緯のちがいでということになっています。春と秋に同じような能をやるというPRについては、一体としてさせていただかないといけないのかなと思います。
伊藤委員	どう改善するかということと、後半部分の大河ドラマの誘致であるとか歴史街道の活用であるとかですが、常設の常に行けば必ず見ることができる、聞くことができる津市の資料館というか、藤堂高虎のお墓はどこですかと言ったときに、あそこですと言うだけで、深い案内がない。一度教育委員会の方へ伺いに行ったことがありますけれども、ないんです。実際に墓に行きますと、墓石は非常に立派で倒れたら大変じゃないかと思うくらい立派なんですけれども、みなさんこれを認識されているのかと思うんですが、大河ドラマを誘致するには脚本家でかなり変わってしまうんですけれども、高虎を大河ドラマに誘致するのであれば、こういう視点で高虎を見ると面白いんじゃないかと取りつきやすい、オリジナリティな考え方を行政の方に押し付けるわけではありませんよ。やるなら、それならいいですよと話になっていく。私イベントのたたき台から積み上げていくところに、関わるが多ございまして、一番大事なことは、楽しみながらやらない限りまず結果がよくない。すべての答えですが、教育委員会とがっぷり四つでくみながら、教育されていない者同士が協議していても、理解されない部分もあると思います。今後のことを考えれば当然我々の後輩であるとか、今の子どもたちであるとかから即教育をしていかない限り、全然数値が変わっていかないとしますので、そんな簡単なことから当たり前のように取り組まないで、行政で異動とかがある方にとってはマニュアルだけが引き継がれていて、中の話が全くつながっていないと、それも非常に意味がないことになってしまう。これから小中一環教育になりつつあると思いますので、私も河芸の朝陽中学校のコミュニティスクールの委員をさせてもらっていますけれども、幸いにして河芸町というのは中学校が1つに対して小学校が4つで、前の町長は8期もやっていたので、30年以上関

	<p>連した教育をずっとやっていました。合併してから市教委の方が来られて一環なり、そういう方向でと言われますと、もうすでにやっていますよというような状態でした。当然、行政の方々もご理解いただいて、前向きにもう一度第1弾目から裾野から作り直していただいて、こういうことに関してもよい方向になると思いますので、来年から確実に裾野を作っていくという考え方にすれば、いたって簡単なことで、その点柔軟なお考えで取り組んでいただければと思いますので、なかなか横に互いに手を差しのべる、意見するという事は行政の中では難しいと思いますが、そういう努力をしない限り、文化事業につきましては圧縮されているものですので、我々がどれだけ奮起しましても今の教育事情がそういうことであれば一生かけても取り戻せないのです。努力の仕方が分かれば確実に実施、実行ができて、結果が出せると思いますので、くれぐれも言葉の協議だけで先送りされませんようにということでもよろしくお願ひします。</p>
<p>阪野委員</p>	<p>今、藤堂高虎さんの話がでましたので、それに関連して、私も津市民なので、藤堂高虎が大河ドラマに取り上げられたら嬉しいですが、併せて先日、NHKの日曜美術館に半泥子さんが取り上げられていました。できたら半泥子さんが生まれて、銀行の頭取をされて、さらに陶芸で名を残された方なので、魯山人はテレビドラマになったと思うのですが、半泥子はまだなっていないので、できたら半泥子さんもテレビドラマになるように市として運動していただければ私としては嬉しい。二兎を追う者は一兎をも得ずではないですけども、できましたら藤堂高虎、半泥子ともテレビドラマに取り上げられたら、津市民として私としては嬉しいです。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>子どもたちへの歴史教育ですとか、津市の偉人をテレビドラマに取り上げていくということに関しては、やはり歴史をきちんと編纂しないといけないと思います。津市史の編纂は、久居市史もそうですけれども、50年ストップしています。私が生まれたころに作られた市史のままです。今世紀になってから伊勢市とか伊賀市とかも市史編纂されていますし、歴史資料館が立派な亀山市では本という形はとらないですが、編纂したものをホームページにアップして随時更新していくという形がとられています。いろいろなことをする基礎資料として、市史編纂ということをしかりやっていたきたいなという風に思います。</p>
<p>中津委員</p>	<p>関連して、県都に資料館とかがない県都は珍しいです。まず県都に資料館をぜひ作ってほしい。専門の学芸員が津市にはいないんですね。県にはこの間県立博物館ができましたので、たくさんみえますけれども、市にも専門分野の学芸員を配置してほしい。強い要望です。その方たちが、あちこち例えば小中学校に行かれて、いろんな宣伝される。今言われた津市の偉人、半泥子さんとか、高虎さんとかぜひやってほしいために学芸員がほしい。そのために資料を集める場所がほしい。県都です。</p>
<p>棕本委員</p>	<p>ときめき高虎会で紙芝居なんかをやっていたんです。お呼びがちょっと少なくなりまして、もうちょっと子どもたちに高虎さんとかお夏の方とか取り上げていただいたらもっと子どもが身近に感じるだろうし、石垣もだいぶ悪くなってきたので、石垣がどう積んであるんだろうともう少し子どもたちに説明させていただく機会をもらえたらいいなと思うんで</p>

	すけれども。
濱野委員	1つ聞きますけれども、半泥子さんの跡地のところ津市に寄付いただきまして、偕楽公園より大きい公園ができますけれども、あれはどこが管轄していますか。中に文化の拠点がありますか。
市川次長	建設が公園として、昨年決定されて。
濱野委員	文化の拠点となる施設ですが、こちらとは関係なしですか。津市に久しぶりに大きな公園ができますからね。中心地に。
中津委員	津市としては、残された唯一の中心地に近い憩いの場所になるんですよ。文化の憩いの場所になる。
川合副会長	今、中津さんからお話があって、市からお話がないので、以前津市に博物館の構想があって、その時に学芸員さんをたくさん採用してみえるんです。今、係をやってもらっている中村さんもそうですけれども、いらっしゃるんですが活躍してもらおう場所が結局できないままきているので、専門的な知識をもって、我々もいろいろ教えてもらいましたが、活躍をしてもらっているんですが。いらっしゃらないということではないんです。
山田会長	多様なご要望などもありましたが。他にいかがでしょうか。実績評価のところについては大体お気づきの点はよろしいでしょうか。ぜひ、非常に貴重な意見、活発な意見をいただきましたので、これだけ事業評価をがっちりやるようになったという大きな成果を、前進して行ってやってほしいと。ここでの意見を活かしてやっていただければという風にお願ひします。それでは、次の報告の方に移らせていただきまして、今の話のつながりなんですけれども平成27年度文化振興事業の事業計画についてです。それではそちらについてもご説明いただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。
事務局	「平成27年度文化振興事業の事業計画について」説明
山田会長	今までの26年度を踏まえた27年度ということになりますが、話がつながっていますので、お気づきの点ご意見がありましたらお願ひします。いかがでしょうか。
伊藤委員	今の話でありましたけれども、指定管理、指定管理と言ひますけれども、やってくれるであろうと、人に任せますという風にも聞こえますね。活動は市民にとってみたら行政と捉えらると思ひますので、私としてはこの場で話すとするれば、行政側が意図した知識を持って、これはこうしたいというか、志というか発想というか少なからずもった上での発言にしたいと聞かれないと、非常に事務的なという風にもしか聞こえてこない。我々は最前線で実行されてみえる人ばかりなので、その辺が今ひとつ遠い発言であるようにしか聞こえない。見方を変えれば企画委員会みたいなものと受け止めたたいところ、くれぐれも前向きで、すべてこういう形でやっていきますと表現していただければと我々もグッと入り込める

<p>脇田課長</p>	<p>と思います。その点よろしく申し上げます。</p> <p>少し詳しく説明させていただきます。木村の方からも申しあげましたけれども、今回240万、文化振興事業をあげさせてもらいましたけれども、これ2年間の指定管理といえますか、施設を管理するという意味での指定管理ではなくて、新しい文化事業をどうやってホールの中で活かしながらやっていくかというようなことの検討を重ねた結果、リージョンプラザをはじめとする文化ホールでどのような事業が合うのか、市としてどういう事業をやっていくんだと意思を決定していく部分も含めまして、検討を重ねてきたわけでございます。ほぼその中身も決まっておりますので、実は6月補正でその辺の方法を出すための予算をあげるつもりでございますけれども、その考え方の1つとして、リージョンプラザでは室内楽の公演なり、室内楽の楽器のレクチャーとそういうものが、600席規模のホールでございますので、大きなものもできないという中で、リージョンプラザの規模にあったものをしていきたいということで今回1本だけですけど企画をさせていただきました。そういう考え方の中で、できれば次年度指定管理者制度という風になる方向で考えていますけれども、施設を管理するだけでなく、そういう事業をやっただけのような中身で進めていきたいと思っておりますので、その辺は今回の文化振興計画の事業は進んでおりませんが、そういう中で事業計画を実行していきたいなと思っております。</p> <p>それと、久居ホールにつきましても、昨年、一昨年から検討委員会なりで検討していただきながら、これも劇場法を踏まえた施設でいくということですので、当然今までのホールとは違って、文化ホールとして充分活用がいただけるようなホールを目指して、今、整備をさせていただいておりますので、これにつきましても関連します予算につきましては、6月に計上していく予定でございますので、そういう意味では大きく前進できるのではないかなと。そういう中でいろんな事業を展開していきたいような、まずは土台を作っていきたいなと思っております。</p>
<p>中津委員</p>	<p>生涯学習振興計画の事業名は上がっているんですけども、これは何も上がってないですね。これを上げることはできないんですか。それと、事業番号20番ですけども、28年度から見込みが随分増えていますね、増える見込みを教えてください。</p>
<p>脇田課長</p>	<p>その部分は文化振興計画が策定されました時から関連をしておりますので、教育委員会の部分も計画の中に掲載をさせていただいていたという関係であっておりますけれども、事業としましては、生涯学習課の方で生涯学習計画の中で実行いただくということで、文化振興計画の中では事業としては、除いてございます。それから、先ほどの事業番号20番の関係ですが、リージョンプラザの関係で、中長期修繕計画というのがございます。その計画の中で、膨大な事業費が見込まれています。ただそれが先ほどの事業評価の時にも申しあげましたが、財政的な事情もありながら思うように進んでいないということもあり、計画自体を次年度以降に後らせていただいとすることで、膨大な金額となっております。このまま実行できるというのはなかなか難しいと。できる限り修繕をしなければいけないという部分についてはしていくという考えの中で実施していきたいと考えています。あと、久居ホールの整備につきましても、29年度から着工する予定でございますので、その部分も含ませ</p>

	<p>ていただいとるということでございます。</p>
山田会長	<p>事業番号20のところは、27年度は非常に少なく、28はかなり多くて、29年度もかなり多いというのは、そういう改修というパーセントがすごい低いので、それを今年はダメだけど28年度ころからは改修率をかなり高くしようという計画と久居ホールの両方が入っているということで理解するということですね。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
濱野委員	<p>1つだけよろしいでしょうか。事業番号27番のツーデーウォーク。津の新しいシティマラソンは3年後ということですが、もう今コースの設定など進めているみたいですね。ツーデーウォークは、今年27年度は準備はなしですか。例えばツーデーというのは2日間ですので、初日は短い方は津駅から高田本山をまわるとか長い方はお江さんの河芸の方を回るとか2日目は高虎コースであったり、長いコースは結城さんをまわるとか調べたりとかは27年度は何もしないんですか。</p>
脇田課長	<p>ツーデーウォークを計画する中で、文化に関連してツーデーウォークをやると。言っていただきましたような方法もあると思いますし、お城周辺も歩く一身田も歩くとそういう風な形の計画もあるんですけども、津市内にはいろんなウォークコースもありますし、目的がそれぞれ違いますので、津市としてツーデーウォークをやっていくという中では、文化だけに特化せずにやった方がいい部分もあるのかなあと今、検討させていただいております。27年度すぐにはかからしていただけないなというふうな感じです。</p>
濱野委員	<p>補正でいくんですね。28年にすぐにスタートというわけにはいかないもので、27年に時期的にはしないといけないな。ある程度は調べたりしないといけないですね。</p>
脇田課長	<p>内部で調査、調整をしないといけない部分もありますし、市としてどうしていくかということも決定しなければならないので、もう少し時間をいただきたいと。</p>
濱野委員	<p>マラソンの方は3年後やのに大体のコースの案ができたりして調整していたので。</p>
新家部長	<p>ハーフマラソンにつきましては、今の安濃地域ではなかなか難しいので、都心部にもってくるつもりです。1年間かけてある程度コースを考えているんですが、警察とかいろいろな協議をするのに、1年程度は最低でも必要ですし、実施にむけてはもう1年くらい必要ですので、まだ開催日はいつと決めずに、みなさんに喜んでいただけるハーフのコースの選定をしていますので、これももう少し時間をいただきたいと思います。</p>
濱野委員	<p>ツーデーも準備せんでいいのかなと。</p>
山田会長	<p>だんだんまとめていかなければならないので、ご意見を総括的にでもいいので、ぜひみなさんからご意見をいただこうと思いますので、中林委</p>

	員、錦委員、渡瀬委員にそれぞれ何か総括的にでも結構ですので、何かご意見をいただければと思いますが、中林委員いかがですか。
中林委員	資料を見せていただきまして、目標値と実績値の差が大きい事業があります。この反省とかいろいろなところを読ませていただきますと、啓蒙をたくさんされた事業は、たくさん来てもらっていますので、学校を通じて事業の知らせをしたりですか、啓蒙活動を積極的にする必要があるのではないかと。ホームページもいいですし、なんでもいいですけれども口伝えというのもいいと思いますし、チラシだけだったら私たち美杉やで行けやんなというのも、言葉がけをしたらそれやったら行こうかということになりますので、啓蒙の仕方工夫が必要だと思います。
山田会長	ありがとうございます。錦委員いかがですか。
錦委員	今日はみなさんのご意見を感心しながら聞いておりまして、それぞれの立場でみなさんよく考えてらっしゃるし、これだけ意見があがる審議会も久しぶりじゃないかなという気がして勉強になりました。 文化というのは、やっぱりすごく難しくて、行政の人に任せるものではないんじゃないかなという気がします。文化というのは、実際にやっている市民の人たちの力が集まって、凝縮されて1つずつ根付いていくものであって、津市の行政だとか三重県の行政に頼って、文化の水準があがるものではない。市民の知的レベルが文化事業を盛り上げていくのではないかなと、市民の責任じゃないかなとすごく考えていました。どうやったら津市のレベルがアップするか、市民の努力じゃないかなと思います。みなさん熱心に考えているということは、多分これから先も津市の文化はレベルアップしていくんじゃないかなという風に思いましたし、行政の人はそれを支えていく役目であって、決して行政が引っ張っていくものではないと私は思います。今後ともよろしくお願いします。
渡瀬委員	ここに審議会の意見というのが書いてあったので、全部事業を見てないし、参加もしていないし自分で参加している部分は分かるんですけど、他のところは聞くだけで、体験していないので、どういう風にしたらいいかなと思っていたんですけど、この間、小津さんの記念碑を作る時に、みなさん本当に一生懸命お金も集められて記念碑ができました。映画の上映があり「彼岸花」だったので、450人も人が集まりました。市民の方も映画というのはお好みなんだと、山本富士子さんが目的だったのかもしれませんが、人がたくさん集まってくれて良かったなと思いました。市民と行政が一緒になってやったことがよく分かります。私たちも今度、半泥子さんのお家を建てるのも頑張るやらないといけないなと思っているんですけども、市民の力をお借りして、行政の方にバックアップしていただいて、半泥子公園を作っていきたいなど。ホールもいいホールが建つように、ぜひぜひよろしくお願いします。
田端委員	前段で、意見を申し上げた中で不足していた事を申し上げます。事業番号4の意見・アンケート結果等として、久居の音楽祭では、開場が狭く、音響が悪いとか、四季の彩り祭りでは、舞台音響設備の改善が必要などの実行委員会としての意見が出ています。そこで27年度の計画の中での資金の手当では26年度と同額になっています。改善しようという方向性は何もないのですか。また同じようなことにならないですか。

脇田課長	この事業ですね、各総合支所が中心に地域の方と相談をしながら、予算を計上させてもらっています。それで、久居地域につきましては、久居ホールの整備をさせてもらっているわけですが、市民会館が休館をしているということで使っていただけないと。久居の地域文化祭なんかでは、そういう経費も昨年から入れさせていただいておるんですが、来年度は予算の手立てはしてごさいません。この地域の文化祭がずっとやられているんですが、音響が悪かったとかそういう意見がある半面、家庭的でよかったとかトータルの話でありますので、それ以上にそういう要望が出てきましたら、総合支所とも相談をさせてもらいたいと思いますが、来年については、同じような金額で要求をさせていただいて、やっていただく予定です。
山田会長	施設面については、4番というよりはホールなんかを修繕するという方で見えていくということですよ。
脇田課長	久居ホールができましたら、それだけの設備ができると思いますので。
伊藤委員	イベントにおける音響ということに関しては、私は40年近くやっていると、ほとんど三重の舞台音響の組合の人たちと顔なじみになってしましまして、やはり、音響設定をぱっとみて分かる人がいいんですよ。その人が同じものでも扱いによって結果が違うと。予算を出せば必ずよくなるというのは一概には言えないというのもあります。なくても頭脳だけを引き抜いてきて、ここでこれをやりたいんだと寄せ集めをしないでもいい音響になる。言葉が隅々まで理解できる。悲しいかな娘の結婚式、最新の結婚式場でしたけど、非常に聞き取りにくかったです。演出は素晴らしかったですけど、非常に聞き取りにくいと。それは残念な結果になりますので、その点は持っていきようでいろいろ変わります。2月でしたか、南郊中学校で地元の出身者が東京で音楽活動をしているということで演奏するのに音響設備がないということで、私の資材なり、友達の資材なりで一応体育館で400人くらいの人前でライブ演奏ができるまでの設備は整えましたけれど、認識しているものであれば、足りないものが補充できるということが言えますので、そういうところはお任せでなんとかなるだろうということではなくて、結果がちゃんと見えるまで納得しないという風にされれば、間違いのないという言い方ができると思います。最後にもう一点だけ、平成28年度に河芸の道の駅がオープンする運びで進められておるかと思えます。実際、内部のレイアウトですとか、意見も河芸総合支所に出させていただきまして、国交省の図面が悪いよと私が修正したものを担当の方が国交省と修正をされて、先見も変わり行政側が建てる施設のエリアの位置関係も納まる方向で進めていただいておりますけど、津市全体からすると一番北の隅っこになりますけれども、まずは1つの箱ができるんですから、皮切りにそのあるコーナーにこの課でもよろしいし、生涯学習課でも結構ですから、なんらかの形で文化を示すという意味でのコーナーを併設することが重要じゃないかなと。
山田会長	他によろしいでしょうか。それでは本日は参考になる意見をありがとうございました。議事と報告はここまでさせていただいて、最後にその他、事務局の方から何かございますでしょうか。

<p>木村主幹</p>	<p>お手元の資料の一番最後、久居ホール整備有識者委員会状況報告会というペーパーが1枚入っていると思いますが、昨年度も久居ホールの状況を会がある度にご説明させていただいておりましたが、いよいよこの資料にありますように、25年度整備基本計画というものを検討委員会で検討していただいて、それが26年4月に基本計画としてできたんですが、もう少し具体的な内容にしないと設計に移れないということで、26年度は有識者委員会を設置しまして、ホールの専門家であるとか、運営の専門家であるとか先生方、全部で4人ですけれども検討していただきました。それがつい先日、3月24日に有識者委員会の意見ということで、意見書を市長に提出していただきました。それが、真ん中にある内容ですが、ホールは600～700席、1階が400席前後の積層バルコニー客席で、1階限定で使うこともできるし、そういう空間にしましょうと。それから当初は演劇とかパフォーミング系を中心にと考えていたんですが、音響反射板を備えて高次元の多ジャンル対応にしました。その代わりに、スタジオというのを設けまして、そこではパフォーミング系の練習スペースにしてはどうかということになりました。練習から公演までできるように専門の先生方からはブラックボックスと言われていたんですが、周りが黒い演劇の小さな劇場でよくあるようなもので、その隣に展示ギャラリーを白い壁で長さを十分にとったものを作りましょうと。スタジオが展示ギャラリーにもできるようにしておいて、スタジオと展示ギャラリーを合わせて使うことができるというような案です。それ以外にホールで公演がある時だけ人が押し寄せて、公演が終わったら帰っていくというホールにするのではなくて、情報ラウンジとかカフェとか常に人が立ち寄ってくれる場にしようというような案をいただきました。それ以外にもバンドの練習の場とかも設置して、若い人のニーズに合わせて練習できる場所を作りましょうという意見もいただきました。特にご要望が多かった市展の場所が小さいのでここでしたいというのは、市展の際には全館市展の会場にしてしまおうというような形で対応したらどうかというご意見をいただきました。それを基に行政の方で整理し方針を決めて、27年は基本設計を28年度は実施設計、29・30で本体工事、31年オープンを目指したいと思っています。ただ、27年度の予算が先ほどの計画にもありましたように、盛られておりませんので、6月補正くらいかなあとと思います。先ほど田端委員からも言われたように、地域文化祭で、こんな音響の悪いところというのが、本来文化祭とか使うようなホールではなくて、とりあえず近くにあるからということで総合福祉会館のちょっとした講演会くらいというか舞台もほんとに小さなところを久居の方は我慢して使っていただいています。実は先週、久居地域限定でさせていただいたんですけれども、ものすごく新しいホールに期待を持ってみえまして、今は音響が悪くても我慢していこうと思ってもらっているような状況でございます。以上で説明を終わります。</p>
<p>阪野委員</p>	<p>久居ホールについて質問いいでしょうか。中日新聞の3月26日津市民版に出てまして、やっと久居ホールができるんだという感じで嬉しく思ったんですが、建築は設計書が非常に重要だと思いますが、津でもう設計事務所が決められているのか。よくコンペで素人の人をいっぱい寄せてそれからいいのを選んで、国会議事堂を作るとか、シドニーのオペラハウス作るとか、そういう歴史があるんですがその辺までお考えでしょ</p>

脇田課長	うか。 ようやく今、意見書をいただきまして、ホールの概要といたしますか出てきましたので、これに基づきまして設計者を選定するプロポーザルをさせていただきます予定です。その募集要項については検討中で、それから設計者を決めていく段階に入ります。
山田会長	ではよろしいでしょうか。それでは審議会を終了します。